

# 九州正教会だより

第68号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年5月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



## 奇跡の人

司祭グリゴリイ 水野 宏

ハリストス復活！いま正教会は、40日間の復活祭期の真っ最中にあります。

さて、盲聾啞の三重苦を克服したヘレン・ケラー（1880-1968）の名は誰もがご存じでしょう。幼少期の彼女を描いた物語「奇跡の人」は映画にもなり、大変有名です。

この物語の主人公はヘレンではなく、彼女の家庭教師のアニー・サリバンです。アニーはヘレンに懸命に「ことば」を教えようとしていました。そしてヘレンの手に井戸の水をかけ、自分の顔に触らせて「water」（水）と言う時の口の動きを示しました。その結果、初めてヘレンにwaterという単語を教えただけでなく、どんなものにも名前があるという「ものの道理」を分からせることに成功しました。つまりアニーは「水」を通して、目の見えないヘレンの「知恵」の目を開くという奇跡を起こしたのです。ちなみに物語の原題「The Miracle Worker」とは「奇跡を起こした者」という意味です。

さて、復活祭後第6主日（今年は5月25日）は「瞽者（こしゃ）の主日」と呼ばれ、イエスが生まれつきの盲人の目を開いた奇跡の記事（ヨハネ9:1-38）が読めます。

イエスが生まれつきの盲人と出会い、彼の目に唾でこねた土を塗りつけて「シロアムの池に行って洗いなさい」と言いました。盲人がそのようにすると、彼の目が開くという奇跡が起きました。これまで聞しか知らなかった彼が、初めて光を知ったのです。このシロアムの池での目の洗いは洗礼の象りです。ちなみにシロアムとは「遣わされた者」という意味です。

つまり、私たちは生まれた時、たとえ肉体の目は見えていたとしても、「神を知る」という心の目は閉じたままなのです。それが幼児洗礼の人であれ成人洗礼の人であれ、人生のどこかでこの盲人のようにキリストと出会い、信仰によって霊的な目が開くということです。

そもそも「キリストの復活」自体が史上最大の奇跡です。今年も復活祭でそれを再認識した私たちは、心の目を開いて光の道、自らの信仰生活をしっかりと歩いていきましょう。